

IFSCC

学術大会、初のバーチャル開催に

事前申込は1200名超

10月21日から30日までの10日間、「第31回国際化粧品技術者会連盟横浜大会（IFSCC 2020オンライン学術大会、主催：国際化粧品技術者会連盟（IFSCC）、日本化粧品技術者会（SCCC）」が開催される。

日本での開催は、2006年の大阪大会以来だ。慣れも取り込んで、今ある感染拡大の影響で初のオンラインでの開催となる。

IFSCC2020オンライン学術大会のキーフレーズに設定した「Beauty and Happiness Boudaries（美と幸福境界を押し広げていこう）」が採用される。

日本での開催は、2006年の大阪大会以来だ。慣れも取り込んで、今ある感染拡大の影響で初のオンラインでの開催となる。

IFSCC2020オンライン学術大会のキーフレーズに設定した「Beauty and Happiness Boudaries（美と幸福境界を押し広げていこう）」が採用される。

IFSCC2020オンライン学術大会のキーフレーズに設定した「Beauty and Happiness Boudaries（美と幸福境界を押し広げていこう）」が採用される。



「このほり、ともに06年大阪大会（口頭発表66題、ポスター発表273題）を上回った。参加者は9月21日現在まで1200名以上の申し込みがあり、2年前のミューン大会（1112名）を既に上回っている。

同大会の広報部会長・菅沼薫氏は「準備を進めてきた横浜でのリアル開催ができないのは残念だが、初めは残念だが、初めてのバーチャル開催を日本で行うというところで、有意

義な大会にしたい。化粧品の研究・技術の底上げを目的とした大会であるので、学術研究としての質も高くなる。研究内容の幅の広がり、キーフレーズ・キーワードへの想いを込め、ユアルへの想いに込め、業界としての多様性の高さを感ずってもらいたい」と話す。

参加者にはオンライン開催ならではのメリット。テーマ毎に細分化・分類も感じてもらえそうだ。し、気になる発表を選び、会期中であれば、気になった発表をダウンロード。また、優れた学術発表を発表するアワードは、これまで最終日に行ってきたが、今回は最終日2日目の28日に実施し、アワードを受賞した研究発表を、もう一度聴きたい方も見逃した方も、視聴できるように設定した」（菅沼氏）。



True Data 代表取締役社長

米倉 裕之 氏

The Voice

True Data を込めた」と語る。

は10月2日、「企業理念（パーパス）を「データと知恵で未来をつくる」に刷新したと発表

した。新パーパスについて、米倉裕之社長は「ビッグデータは人の知恵なくしては活用

できないと考へ、データ提供と人材育成で社会に貢献していく想い

を込めた」と語る。

多様なキャリアを持つ米倉社長は11年、取締役として同社に入社

する。12年に代表取締役就任すると事業モデルを一新し、約60

00万人規模の小売店の購買データ（ID-POS）を統合、統計

化。大企業に加え、リソースが限られる中小

企業等もデータを活用できる環境を整えた。

そして事業が軌道に乗る中、「急速に変化する社会における会社の存在意義」を熟考し

た末、新パーパスと行動指標を発表した。

行動指標は「社会貢献と持続可能な成長」「地域や規模を超えたあらゆる組織のデータ

活用」「データやテクノロジーを使う人の教育推進」の3項目だ。

具体策の1つとして、12月から世界100カ国以上で利用されるオンラインデータサービス「Olaicle

（高）

一丸ファルコス 医薬部外品の承認を取得

プロテオグリカンとして「日本オラクル」と連携。オフレインの購買データとの連動で、効果的なオンライン広告のリアルタイム配信が可能になるといふ。

また、8月には地域生活者の特長を多角的な項目で示すデータサービス「KURASHIRU360」を展開した。同社の購買データに、国勢調査等の統計データや移動情報等を掛け合わせ、購買行動や嗜好を郵便番号単位で数値化。個人情報化していく（米倉氏）

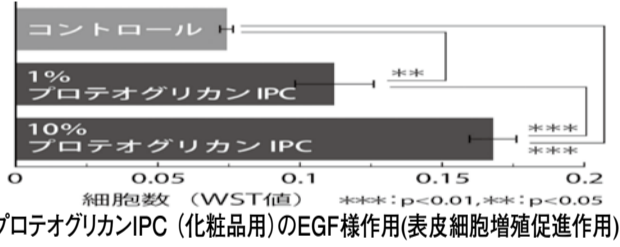
内外美容素材として提案している。

同社は、サケ軟骨由来プロテオグリカンの「EGF様作用」に着目し、表皮細胞増殖作用やコラーゲン・ヒアルロン酸の産生促進作用などに関する研究を推進。ヒトモニター試験では保湿作用や肌荒れ改善作用、シワ改善作用などを確認しており、次世代型のエイジングケア素材として化粧品への配合実績を伸ばしている。

ビッグデータの力と 人材育成で社会を変える

活用」「データやテクノロジーを使う人の教育推進」の3項目だ。具体策の1つとして、12月から世界100カ国以上で利用されるオンラインデータサービス「Olaicle

（高）



今回の承認取得により、医薬部外品への配合が可能となり、効果・効能を標ぼうすることができる。